

令和4年12月12日

明照保育園 保護者 各位

明照保育園 園長 津村 侑弥

令和4年10月発生 年長児 園内事故（前額部裂傷）への対応について

日頃より当法人保育事業に際し、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。

全体周知が遅くなってしまいましたが、10月に園内で発生した年長児の事故を受け、当園ではその後、改善策を検討し以下のようなことに取り組んでおります。

怪我をされた年長児保護者様にはすでに取り組みを説明しておりましたが、お預かりする子ども達すべてに関わることで、全保護者にご理解いただきたく、周知するとともに、当園ホームページの情報公開「方針 新しい取り組み」にもアップさせていただきます。詳細は以下となります。（本書はケガをされた保護者様、事例紹介施設様の承諾を得ています。）

経緯：年長児が7月と10月、園内にて病院治療・通院を伴う事故が発生しました。

対応：当園では同クラスで大きなけがを伴う事故が重ねて発生したことを受けて、重要事故と判断し、改善策を協議し取り組むことといたしました。

当園としましては職員同士のみの視点だけではなく、研修への積極的参加や教育機関の助言を仰ぐ体制をとり保育を行っておりましたが、まだまだ努力が至らない点があったと受け止めています。

不足部分を努力することはもちろんですが、一方で集団生活・保育を行う以上、常にけがや事故のリスクはあり、すべてを回避できるものではなく、それを目指すとすれば子どもたちの監視や遊びの縮小となり、我々の本意ではありません。ただ、今回の事故を学び、同じようなことが各所で発生する確率を少しでも下げられるよう目指すため、本書をまとめ、当法人保育事業の姿勢についてご理解をお願いできればと考えています。

【事故の状況】

発生日時：令和4年10月5日(水) 午前10時20分

職員配置：担任1名

活動内容：屋上（おにごっこ、かけっこ等）

保育室（ブロック遊び、お絵かき等）



事故の発生場所



担任の見える景色

（外に出ようとするときの視点）

発生状況：屋上で友達とおいかけっこをしていた際に、背中を友達に勢いよく押され、壁(写真の赤丸)に額をぶつけ前額部裂傷の怪我を負った。

【事故の要因】

- ・事故発生場所が部屋の中から死角となっていたこと
- ・屋内と屋外、2箇所での活動に対し職員の見守りの目が不足していたこと
- ・激しい遊び方に対し声かけが不十分だったこと

【改善できることの実践例・できないことの整理】

先に、できないこととしてはすべての死角を消すということです。保育園は大きなおうちのような場所であり、年長児の発達状況を踏まえ、朝の準備をし、ホールに降りてくるなどは各自の自立で行っています。例えば、さくら組のお部屋に先生が通りかかり様子をうかがうなどは日常的にありますが、すべての行動の死角をなくすということは現実的には難しいと考えます。

できることにうつりますが、活動する上での死角を少しでも減らすようにすること、一方で子どもたちとの保育園との関りには期限があります。これから自分で行動しなければいけない子どもたちに、危ない場所を自分で理解し回避できる自立性を育むことへの援助を園全体で行ってまいります。

全体：「子どもを見る目を増やす・配置にあった活動を考える」

基本的に、保育士の配置基準は右記のように国で決められています。これは下回ってはいけない基準であり、休憩や子ども同士のトラブル対応、研修などがありますので、当園では現在配置基準を上回る16名（基準では12名）とパート勤務保育士・保育サポートで保育をしています。その中で、配置にあった活動の検討やヘルプの声かけを実施します。それでも園全体の急な対応等で一人となる場合は、死角を少なくすることに役立つようなアイテムを活用します。（例 ミラーの設置・活動によっては簡易的に吊り下げる）

園児の年齢	配置基準
0歳児	子供3人に対して保育士1人
1～2歳児	子供6人に対して保育士1人
3歳児	子供20人に対して保育士1人
4歳児以上	子供30人に対して保育士1人



屋上：「事故発生場所への対処」

今回事故が発生した場所には、しばらくの間、人工芝を丸め写真のように設置し壁にぶつからないようにします。現状すぐにできる方法での固定設置ですので、長期的にはより良い方法に更新してまいります。



全体：「施設（明照保育園・学童保育）内と保育中の不安箇所をまとめる」

今回の事故を受け、発生した年齢・場所だけにとどまらず、施設全体で共有し、事故の芽となるポイントをまとめ、改善策を講じます。

全体：「施設内の危険箇所の見える化」

通院を要する事故が起きた場所などを、施設内の写真や図に落とし込み、子どもたちもそれを見て注意できるように意識付けを行います。

全体：「クールダウンタイムの実施」

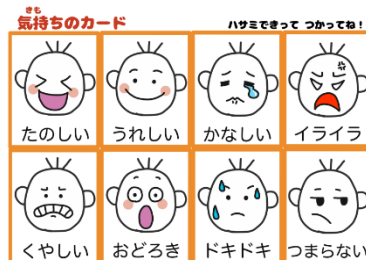
子どもたちが活動に夢中になり過ぎ、ハイテンションになる場合があります。楽しくてしょうがないという状態は決して悪いことではなく、存分に遊んでいる証でもあります。危ない場面が増えることにもつながります。子ども同士が揉める小さなトラブルが頻発している、保育士の声量が普段以上に大きくしないといけない、職員が手薄になるなどの状況判断により、クールダウンタイムを（リラックスする BGM・全体で手足の曲げ伸ばし・深呼吸）設け、高ぶった感情をいったん穏やかにし、活動を再開することとします。

3～5 歳児：「感情表現パネル」

子どもは今日どんな気持ちで登園してきたかを把握することは、その日の子どもへのきめ細かな対応や、ハイテンションなど注意しなければいけないポイント理解につながります。右記のような感情表現パネルを部屋に設け、子ども自身が選択し貼り付けることを取り入れます。自分の気持ちを理解し、表現する気持ち、そして他者の気持ちを理解する気持ちを養うことも目的とします。



新宿せいが子ども園さん 例



3～5 歳児：「転び方を学ぶトレーニングの実施」

外国人児童生徒向け無料学習プリントサイト

今回の事故に関わらず、子どもが大きなけがをする事例は増えています。外遊びの減少など

も要因としてあると推測しますが、子ども自身が身を守る術を保育活動に取り入れてまいります。具体的な方法としては、転がってきたボールを手を出してお腹やおでこで止めるというトレーニングです。この方法を身に付けることで、転ぶとき自然と先に手を出すことを身につけます。

5歳児：「ピーステーブルの設置」

10月の園だよりで触れましたが、子どものトラブルをすべて大人が解決する方法では、小学校に行ってから暴力行為に発展するなどの大きなトラブルにつながる可能性があります。そこで先進的な取り組みも参考にし、右記のように、喧嘩をしたとき子ども自身が解決できるような環境を検討します。



新宿せいが子ども園さん 例

5歳児：「自由遊びなどの活動前のお当番の習慣づけ」

日頃、遊ぶ前に何時までか、行っていい・危ない場所はどこかなどは担任が説明して活動を行っていましたが、それでは受け身であり、子どもたちは言われてないことはOKであると誤った理解で成長してしまうと考えました。そこで、担任からの時間の説明に続いて、その日のお当番さんが「おススメの楽しい遊び」、「危ない場所や危ない遊び方」を担任に聞くという自発や自立性を促す習慣付けを行います。そうすることで、保育園を離れた学校や家庭においても、子どもが自ら危ない場所を知ろうとする行動ができるように育みます。

「最後に」

子どもたちが初めて集団生活をする場が保育園であり、遊んでいたじゃれ合いが数秒でけんかに発展しているということも日常茶飯事です。子どもたちがワクワクする遊びや活動を守ることと、施設内のすべての危険な場所を排除するのではなく、その存在を知り回避していく術を学んでいくことの両方を職員一同、努力を重ねてまいりたいと思います。